



第 52 号

令和6年7月1日

泉南市 民生委員協議会
児童委員

会長 杉 本 昇

編 集

泉南市民児協広報部会



杉本会長

民生委員児童委員協議会総会



令和6年度総会は、5月25日（土）泉南市総合福祉センター（あいびあ泉南）において開催、101名が参加しました。

杉本会長は挨拶で、「避難行動要支援者名簿は、昨年から1年をかけて山本市長と各委員が協定書を締結して提供されました。平常時の見守りや、災害時には自分自身と家族の安全確保ができた状態で、行政等の民生委員児童委員に対する協力要請等を受けてから可能な範囲で支援活動をして欲しい」と述べました。

総会議案は①令和5年度活動報告及び決算報告②令和5年度監査報告③令和6年度活動計画（案）及び予算（案）について審議を行い、満場一致で承認されました。

第2部は「認知症サポーター養成講座」を実施、講師は「認知症地域支援推進員」で、泉南市認知症ケア研究会の野崎健代表と原美穂子氏に務めていただきました。

安心と思いやりの町づくり

～地域共生社会をめざして～

年々増加している認知症
罹患者に対し、民生委員
児童委員はどのようにかわ
つていけばよいのか、民生
委員児童委員協議会として、
泉南市長寿社会推進課に「認
知症基本法」とそれに基づく
市条例についてお聞きし、
総会に講師を招いていただ
き、認知症サポーター養成
講座を開講しました。

(広報部会)

認知症基本法および市条例

認知症基本法は、認知症
の人が尊厳を保持し希望を
持つて暮らすことができる
よう、認知症の人を含めた
国民が、相互に人格と個性
を尊重し支え合い共生する
社会（共生社会）の実現を
図ることが目的で今年1月

から施行されました。都道
府県と市町村は認知症施策
推進計画を策定することが
努力義務とされています。
また、認知症に関する諸施
策は、短期的よりも中長期
的な取り組みが効果的である
ことが研究で分かっています。

す。そこで泉南市の方針や
力の入れどころに沿って持
続的に着実に進めていくた
めに、計画や施策の根幹と
なる「(仮称) 泉南市認知症
条例」の検討に着手するこ
ととなりました。

本市では、市民向けの講
座や講演会等で認知症のご
本人に登壇いただき、当事
者の声を市民に届ける機会
を設けてきました。今回の
条例検討委員会でも認知症
のご本人・ご家族に委員と
してご出席いただき、様々
な視点から意見を出し合い
ながら、あらゆる分野の人
とともに「共生」について考
え、条例を一緒に作ってい
きたいと思っています。民
生委員児童委員の皆さんと
も一緒に考える機会を作る
ことができれば幸いです。

認知症サポーター養成講座とは

この講座は、認知症に対
する正しい知識を持ち、地
域で認知症のご本人やその
ご家族に対して出来る範囲
で手助けする「認知症サ
ポーター」を養成するもの
で、「キャリアバンメイト」
と呼ばれるボランティアが

講師となって、市内各地で
開催しています。

また、本市では、市民、企
業、学校及び保育所などに
向けて、18年間で400回以上、
累計2万531人の認知症サ
ポーターを養成してきました。
さらに学びたい方はス
トップアップ講座を受けて
「WAOパートナー」とい
う認知症のある方の見守り
やサポートを行うボラン
ティアに登録できます。W
AOパートナーが複数人数
集まり、地域で認知症力
フエを開始したり、既存の
認知症力フエで傾聴ボラン
ティアをしたりなど、活動
が広がってきています。安
心して暮らし続けられるま
ちづくりを進めるには、古
い認知症観（「認知症に
なったらおしまい」、「何も
できなくなっていく」等）
から新しい認知症観（「わ
かること・できることがあ
る」、「地域を舞台に心豊か
な日々を送る」等）へ転換
し、根本的な意識改革を皆
でやっていく必要があると
考えています。

泉南市長寿社会推進課

認知症サポーター養成講座

認知症 早期発見のために

講師：認知症地域支援推進員



野崎健 氏

原美穂子 氏

認知症は年齢が進むとと
もに罹患する率が高くなり
ますが、中には治る認知症
があり、進行を遅らせるこ
ともでき、罹患してもその
後の生活に備えることがで
きるため、できるだけ早く
気づくことが重要です。

本人が気づくこともある
でしょうが、家族などの周
囲の人が気づく場合が多い
でしょう。例えば物忘れが
増えたり、時間・場所・人
がわからなくなったり、判
断力・推察力が衰えたり、
意欲がなくなったり、人柄
が代わったり、不安感が強
くなったりが気づきのポイ
ントです。

認知症の人には、驚かせ
ない、急がせない、自尊心

を傷つけない、の3つの
「ない」で接し、具体的に
は、①まずは見守る、②余
裕を持つて対応する、③声
をかけるときは1人で、④
後ろからこえをかけない、
⑤やさしい口調で、⑥おだ
やかに、はっきりとした話し
方で、⑦認知症の人の言葉
に耳を傾け、その人の言葉
を使って、ゆっくり対応す
る、の7つのポイントを心
得ておくようにしましょ
う。そのほか家族にはでき
ることがありますが、どう
対処してよいかわから
ず困っておられる家族も多
いので、本日の講習を参考
に委員として適切にアドバ
イスしてください。



部会だより

広報部会

読む時代から見る時代へ

当部会では広報紙「民児協せんなん」の紙面作りを主な活動としてきました。ただ、マンネリに陥っているのではないかという思いが常にありました。大阪府民児協連合会の「広報活動スキルアップ研修」があり、何かヒントが得られるのではないかと期待して参加しました。

「心を写すフोटograファー」をキャッチコピーとする講師スバル氏の講演は、社会福祉士の資格を有し、社協の職員の経験を生かしたもので、以前の研修が紙面の作り方に重点が置かれていたのと少し異なっていました。誰に向けて広報するのか、読み手の心を動かしているのか、そし



グループワーク

て、なぜ広報するのかという点を基本としたうえで、いくつかの地方の広報紙を例として具体的な提言がありました。

「広報」を含め世の中の情報トレンドは「読む時代から「見る」時代へ変わってきています。掲載する写真は単に事実を伝えるものではなく、記事にリンクしたも

のであるのは当然として、何を伝えたいか、見た人の心が動いたかが重要です。そのためには、被写体の前に余白を作るとか、下から撮って魅力的に見せるとか、大胆なアップで心情を伝えるなどのテクニックがあることを教えていただき、参考になりました。

同様に記事の「見出し」も、それだけで情報を完結してしまうと記事本文をスルーしてしまう傾向にあるので、逆に誘導するような、疑問を抱かすようなものにするとかの工夫が必要です。例えば、本記事の見出しを従来の「広報活動スキルアップ研修会報告」から「読む時代から見る時代へ」としてみました。果たして成功したでしょうか。

井ノ口 一如



「福祉と共生のまちづくり研修会」に参加して

地域福祉部会 原 美穂子

令和6年2月7日、大阪国際交流センターにて、高崎健康福祉大学健康福祉学部社会福祉学科の金井敏教授による『災害に備える民生委員・児童委員活動のポイント』の研修を受講しました。

元日に能登半島地震が起るとは誰が予想できたでしょう。まさに、今、民生委員としてどう行動するのかを問い、我がごととして捉える研修でした。災害対策基本法

が、大きな災害のたびに改訂され、それに伴い、改訂第4版となった「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」を詳しく説明され、

新米民生委員としては大変勉強になりました。金井教授は実際に石川県から情報を得られ、実情を交えたお話は貴重でした。

指針には「災害に備える民生委員・児童委員活動10か条」が明記されており、発災時には民生委員自身も被災者であるため自らの安全の確保

を優先すること、平常時から民児協というチームで地域と共同して災害に備えること、個人情報管理や情報共有の在り方を考えることなどを痛感しました。

また、新米民生委員として避難行動要支援者名簿を預かることに不安もありましたが、これも災害対策基本法に盛り込まれていたことをこの研修で知り納得しました。

「個別避難計画の作成」には介護支援専門員等の協同作業であり、現実には難しい課題があると感じました。

他市の方々とのグループワークでは様々な防災訓練や災害への備えの取り組みを伺い、参考になりました。

今私にできることは、民生委員として、日頃からの見守り活動で関係性を構築しておくことこそが、災害時にも大いに役立つと考え、活動を継続していきたいと強く思いました。

児童福祉部会

卒業生にエール

当部会では、日頃から校門での朝の挨拶運動や学校訪問を行っています。

今年は、コロナが5類扱いになり、4年振りに卒業式の来賓の規制緩和もあったので、中学校の卒業式の日には校門でおめでとうの挨拶運動をしました。

私は、幡代区長として泉南中学校と雄信小学校の卒業式にも参列し、児童・生徒の様子を見守りました。特に小学校では、最後の別れの言葉に進んだ時にとて



も感動しました。卒業生全員が壇上に上がり、6年間の思い出をリレー方式で全員が大きな声で話しました。在校生も同様に壇上で卒業生と触れ合った思い出を感謝を込めて話してくれました。

この発表を聞いて、ありとその時の情景が目につかび、年甲斐もなくウルウルとなってしまうしました。そして、とても温かな気持ちにさせてもらいました。

卒業生のみんなが新しい環境に早く馴染んで、頼もしい大人へと成長することを心から願っています。

向井 明彦

主任児童委員

一年目の活動

昨年の8月から、雄信地区の主任児童委員として、皆さんの仲間入りをさせていただきました。主任児童委員という名称も初めて知り、一体どんな活動をしたらいんだろう...と何も分からないうスタートでした。



雄信地区「子育てサロン」

不安もたくさんありましたが、先輩方にいろいろな教えていただきながら、数カ月を過ごしてきました。

まだ1年間全ての活動は経験していませんが、小さなお子さんとの関わりが多く可愛い笑顔や、すくすく成長していく姿を見ることができ、いつも温かい気持ちになっています。バタバタと仕事や時間に追われていた自分自身の子育て時代と比べ、ゆとりを持つてお子さんと関われるこの活動は、幸せな時間となりました。

これからも、皆さんと協力して、地域の可愛いお子さんたちと深く繋がってきたいと思っています。

金田 晴美

子育て支援部会

赤ちゃん教室での絆

昨年は5月に一丘中学校区、8月に泉南中学校区、今年1月に西信達中学校区で赤ちゃん教室が開催されました。

私は一丘中学校区に参加、毎週1回5週続きです。コロナ前は校区毎の学校での開催でしたが、今は地域子育て支援センター「ひだまり」が会場です。10組の親子が参加しその日のテーマに添って行われま

す。私たちは母親が学んでいる間赤ちゃんを見守りますが、今回はぐずる子もなぐ母親たちの交流も活発でとても和やかでした。

毎回の反省会では保育士の方々が真剣に親子に寄り添って見守られている様子に感心いたしました。とかく孤立しがちな親子ですが、こうして皆と交わり相談したりお話しするのはとても貴重なことと思います。

教室終了後も交流の場があると聞き、同じ地域に住む者同志が常に情報や子育ての悩みなど共有できて素晴らしいですね。この成果が地域の子育てサロンにも繋がっていけば嬉しい限りです。

岡本 まゆみ



一丘中学校区「赤ちゃん教室」



地域福祉部会

今後の活動計画とその目標

当部会では、さまざまな活動を通じて目標を達成することを計画しています。

まず能登半島地震を教訓に、自助・共助・公助の観点から災害について学ぶ防災講習の受講を決定しています。次に、AEDと応急手当の研修を実施します。

これには、応急担架や三角巾の作り方の講習も含まれます。さらに、防災総合センターでの見学や体験を予定しています。

そして秋頃には、各人がこれらの活動について振り返り、感想を共有します。その情報をまとめ、地域



部会で勉強会

で支援が必要なひとり暮らし高齢者に対する配慮を継続的に実施して行く方針です。これらの活動を通じて、私たち委員は地域社会の福祉向上に貢献することを目指していきます。

籠谷 建一

企画部会

認知症サポーター

当部会は年次総会の準備・運営と管外研修の企画などを主要な任務としています。

今年度の総会第2部の講演内容については話し合いを重ね、本年1月1日に「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」が施行され、泉南市でも条例制定に向けて検討が始まっていることを踏まえ、「認知症」をテーマにすることに決定しました。

具体的には民生委員児童委員も認知症を正しく理解することが必要であるという観点から、NPO法人泉南市認知症ケア研究会より公的な資格である認知症地

地区だより

新家地区

ケアマネジャーとの意見交換会に参加して

3月の定例会後に実施された意見交換会には六尾の郷4名、市内各介護事業所10名、長寿社会推進課1名の15名の参加をいただき5グループに分かれて実施。



受付

まず杉本会長からケアマネジャーとは今まで接点があまりなかったが、福祉活動で同じように関わりがあるのでお互い関係ができれば今後の活動に生かせるのではと、必要性について話がありました。

次に、ケアマネジャーから、介護の必要な人にケアプラン作成やサービス事業所との調整などを行っているとの説明。また、地域包括支援センターからは、介護サービスではサービスを受けられない方や介護サービスではなかなか解決できないような困りごとの相談場所として、民生委員児童委員に対しこれを機に気軽に相談してほしいと伝えられました。

今後、現地体験を通して地域活動に活かせるような管外研修を企画していきたいと思っています。

平山 敬子



グループ討議は自己紹介後意見交換、各委員から日ごろの活動での疑問点や何をどこに相談したらいいのかといったことや、地域包括支援センターやケアマネジャーの日ごろの活動について知らないことが多数あり、有意義な意見交換ができました。最後に各グループからの発表があり、各委員いろいろな思いや困りごとがあることがわかり、そ

西浦 廣美

砂川地区

初めての介護申請

私が初めて介護申請の支援をし、認定をしてもらった時のことをお話しします。その方はいろいろな病気をもっており、訪問した時玄関に出てくるまでにもだいぶ時間がかかるほど身体が不自由な状態でした。いつもは玄関先で話をし、誰も家の中に入れたくないとのことでしたが、ある時署名をいただく必要があり、入れてもらいました。部屋が荒れていて転倒の恐れもあり、介護申請が必要と感じ、その旨を本人に伝えると申請を希望されました。その後、地域包括支援センター六尾の郷にこの件を連絡すると即対応してくださり、介護認定していただきました。

中田 守

鳴滝地区

遊び広場に参加して

市立青少年センターが実施する「遊び広場」は子どもを真ん中に、学校・家庭・地域・行政が一つになり放課後等に安全で安心できる居場所を提供するため、市内の全小学校で開催されています。その輪の中に入らせてもらって約1年になります。



放課後に子どもたちと

樽井地区

1年を振り返る

「コミュニティづくりを推進しています。今までは、大人の背中を見て子どもが育つと考えていました。でも、今は大人が子どもを良く観察して行動するときではないでしょうか。私は、この「遊び広場」を通じて少しでも地域の役に立ちたく思います。」

原 憂子

令和4年に委員として委嘱され2年目を迎えました。民生委員の活動がどのようなものか、何をしたら良いのか、不安を抱えての始まりでした。初めての活動は前任者とひとり暮らしの高齢者宅への訪問でした。「お買物はどうされているのかしら」「話ができるお友だちはいるのかしら」「ケアマネさんやヘルパーさんは必要なのかしら」と私にも大阪市内でひとり暮らしをしている93才の父がいますので実

体験で思ったことが頭をめぐりました。

気持ちばかりが先立ってしまった1年でしたが、少しずつ顔と名前を覚えてもらい、たくさんお話をしてくれる方もいて私も元気をいただいています。これからは安心して何でも話していただけるように、何気ない声かけや見守りをして頑張って活動を続けていきたいと思っています。

吉嶋 由美

一丘地区

満開の桜まつり

当地区において、新任の民生委員児童委員が4月に委嘱されました。さらにもう1名追加の予定で、やっとな6人体制になるのですが、7人目がどうしてもというところなんです。主任児童委員は可能性がゼロに近い状態です。

現在、見守り訪問をしているひとり暮らし高齢者は把握できているだけで92名になりますが、把握できていない方も多数あると思います。

委員長 滝川 和雄



雄信地区

聖徳太子に想いを馳せて

3月25日、法隆寺と大神おあみわ神社に行つて来ました。

法隆寺では、洪水時に水位が上がらず水難から守られたという南大門の前にある鯛石のいわれや、日本で最古の五重塔には釈尊のお骨が納められていること等を教えてもらいました。

金堂の中に聖徳太子の3歳から、少し大きくなった各年齢の太子像がありました。3歳（今の年齢では2歳でしょうか）の顔を拝



五重の塔を見上げています

観させていただくと、さすが太子、しっかりしたお顔でした。

10人の声を聞き分けて話を理解できたとのこと。誰もが知っている十七条憲法や冠位十二階を制定したり遣隋使を派遣されました。十七条憲法では「和をもつて貴しとなす」と和を大切にされたのではないかなと思います。

もし今、聖徳太子が存命だったら、乱れた世の中を観てどう思われるでしょうか。

金田 治代

西信達地区

昔を思い出して

樽井防災コミュニティセンターでの赤ちゃん教室に参加してきました。

今回の赤ちゃん教室では3カ月から7カ月の赤ちゃんの親子さんが離乳食についてお話を聞かれています。その間赤ちゃんのお世話をするのですが、寝る子、泣く子、遊ぶ子さまざま



にしんっこ広場

ます。お母さんたちが安心してお話を聞ける状態にするのが私たちのお手伝いです。

また、当地区には「にしんっこ広場」があり、小さいお子さんから就学前のお子さんを預かり一緒に遊んだりしています。子離れして何十年となる私が、赤ちゃんのお世話なんてできるかと思っていました。が、携わっているうちに昔のことが蘇り、今は抵抗なくお世話することができるようになりました。

私も民生委員児童委員に

なつて日が浅く、まだ活動自体はつきり分かっていませんが、時間があるかぎりいろんな活動に参加できたらと思っています。

上田 清美

信達地区

やがてはポツンと一軒家

私が暮らしている葛畑（つづらばた）は、10軒だけの山間の集落です。春には山桜が、5月ともなれば蜜柑の甘酸っぱい香りが漂う美しいところです。毎日

がとても穏やかな村落ですが、もう何十年も子どももの笑い声は絶えてしまい、やがては「ポツンと一軒家」になってしまいかもしれません。

一人住まいが4軒、二人家庭が3軒など合計で21人が、住民の順送りとなっている区長を中心に力を合わせてガンバっています。民生委員は、葛畑に隣接する童畑（わらずばた）も含むとても広い地域を担当しています。それでも、住まわっている方を昔から互いを良く見知っていますから、日常の見回りなどは気を張らずに行うことができます。

「紀泉わいわい村」や、ハイキングコースなどもある葛畑に、みなさん一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

藤原 由美子



山桜とみかん畑

お元気ですか！先輩



雄信地区 源 次郎

皆さんお元気ですか。

「近ごろは 会話も入れ歯も
かみ合わず」

時事川柳の一句ですが、自分自身を顧りみて、ウンウンと頷きため息が交じります。

終活で「ピンピンコロリ」を願う人は多数ですが、現実には「ネンネンコロリ」が9割も占めているそうです。この残り1割の栄誉を得らんがため、今日も早朝よりウォーキングや柔軟体操を欠かせません。が、反面こればかりは「神のみぞ知る」定めだと受忍している自分がいます（笑）。けれども、したたる汗を拭いながら「蟻の思いも天に届く」----と念じつつ、日々過ごしています。

おめでとう！おめでとうございます

大阪府知事表彰 優良民生委員表彰（10年勤続）

小林 ひかる（西信達）	金田 茂有紀（雄信）	木下 比津留（信達）	南 久治（信達）	岸野 吉美（砂川）	宅川 美恵子（新家）
				丸谷 眞司（樽井）	居村 幸次（雄信）
				田中 知子（樽井）	

大阪府知事表彰 優良主任児童委員表彰（10年勤続）

泉南再発見



男神社本殿

男神社は男里にあり、5千坪に及ぶ神域には樹木が生い茂り、大阪緑百選にも選ばれています。本殿には、彦五瀬命（皇兄）、神日本磐余彦命（神武天皇）が祀られています。彦五瀬命が、「建国の志半ばで死んでしまつ」とは、誠に残念だ」と雄叫びされたので、「おたけびの宮」とも呼ばれています。毎年1月15日には粥占神事が行われ、神事が終

わつてから振る舞われるお粥は、身も心もホカホカにしてくれる上に健康のご利益もいただけるそうです。5月下旬には、「ほたるまつり」が催されます。珍しいヒメボタルが生息し、遠い昔にタイムスリップさせてくれる不思議な空間に足を踏み入れてみませんか？



粥占神事



ほたるまつり
（男神社提供）

新任委員紹介

（令和6年4月1日委嘱）

信達地区 東 美佐代

一丘地区 前谷 優香

編集後記

「民児協せんなん52号」も、各地区・部会の方々の寄稿により、無事完成することができました。ご協力に感謝いたします。

絵文字などを活かしてSNSのメールは書いても、普段の生活で手書きの文を綴る機会が減りました。年賀状も本文から宛名まですべて印刷というものが大半です。言葉は心の代弁者というものの、書くことについては替え玉で済ませてしまいがち。

しかし、広報紙はすべてが筆者の思いがこもった原稿から成り立っています。「書くことは自分との対話」との先哲の至言を心構えとして、編集に携わりました。

餅月 正雄

